

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ぽこぽこ 第一放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	令和6年10月8日		令和6年11月11日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14 (回答者数)	13
○従業者評価実施期間	令和6年10月8日		令和6年11月11日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7 (回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月8日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画を作成するにあたり、スタッフ間でモニタリングを行い、情報共有を図りながら作成している。	その日の振り返りは翌日に行ったり、短時間でもミーティングを行い、児童の情報共有を図っている。	スタッフがそれぞれ自己研鑽を重ね、専門的な支援方法や構造化を含めた環境調整の充実を図りたい。小単位での研修に取り組みたい。
2	保護者や本人の意向に寄り添った支援(共感的)を図っている。	連絡ノートや送迎時のやりとりを利用して、保護者と利用児本人の意向や様子の共有を行っている。保護者から発信があった言葉の意味や背景をくみとり、共感に努めている。	保護者と利用児本人との信頼関係を構築し、共感的支援とともに、相談があった際には助言やアドバイスの提案を行っていきたい。保護者の意向に合わせた面談時間を設け、家族支援の充実を図っていく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者交流や地域交流、きょうだい支援のイベントなどの機会を設けていない。	保護者交流やきょうだい支援については、スタッフの勤務の都合や保護者の参加方法の検討を十分に要す。地域交流においても、療育事業がどのような場所や環境で展開されているか、公表する手段や機会が不十分である。	地域交流においては、法人間や事業所間での利用児童の交流機会を設けていきたいと考える。保護者交流については、保護者の意向を聴取しながら、コロナ禍前に行っていた交流会を再開できると良いと考える。
2	子どもの安全を確保するための計画、各種マニュアル(事故防止、緊急対応時、防犯、感染予防)の周知と説明が不足している。	マニュアルの掲示方法や掲示場所のお知らせが不十分であり、保護者に周知徹底していない現状である。	保護者に伝わりやすい方法やツールを検討していく。現在利用している情報ツール(ラインワークス等)を見直し、活用方法の理解を深める。
3	ハード面におけるバリアフリー化、ユニバーサルデザインが進んでいない。	活動空間の清潔と安全面の検討を図りながら支援環境を提供しているが、トイレや洗面台、棚などの設置場所の高さや大きさの調整までは出来難い。利用児童が使いやすい配慮には限界がある。	改修案を検討し、ハード面における安全性や利便性を高め、支援に繋げていきたい。支援にあたるスタッフの動線も考慮していく。